

1 はじめに

上益城郡は、服部起明会長（甲佐中学校）を中心に、8校15名の研究員で構成され、教科等研究会の活動を中心とし、新学習指導要領完全実施に向け、「主体的・対話的」や「運動の楽しさ」をキーワードとして、研究テーマを設定した。また、上益城郡では長年に渡って体力向上に向けた取り組みを行ってきた。その成果として、徐々に本郡生徒の体力は向上傾向が見られるものの、依然として体力・運動能力調査結果では県や全国平均を下回る種目が多い。そこで、体力を向上させるためには、生徒が自主的に運動を行おうとする関心・意欲を高めるための手立てが必要であると考え、授業の共通実践事項として「①主体的な取り組み」と「②対話的な取り組み」を2つの柱として研究を進めた。

更に本年度は、新たな取り組みとして体力向上を目指した授業研究を小中学校連携で行った。また、研究を進めていく中では長年に渡る取り組みを継続しながら、各学校が行っている体力向上の取り組みについての実践発表と、授業の中に「主体的・対話的」な活動を取り入れた提案授業を行い、研究員で討議を重ねた。

2 研究テーマ

主体的・対話的に取り組み、体力を高める体育授業
 ～運動の楽しさや必要性を感じさせ、関心・意欲を引き出す授業～

3 研究組織

- 部長 服部 起明（甲佐）
- 理事長 有働 秀樹（益城）
- 部会及び研究員

部会	夏期実技研修・新学習指導要領研究部会	授業研究部会	意識調査部会
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技講習会の提案 ・講師、内容の確認 ・日程、役割の確認 ・新学習指導要領実施に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の提案 ・事前研究会の充実 ・教材教具の提案 ・評価の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践レポートの提案 ・生徒の意識調査の実施 ・新体力テスト分析 ・次年度へつなぐ取り組み
チーフ	武田 雅裕（益城）	有働 秀樹（益城）	倉岡 武（蘇陽）
研究員	松本 巧（甲佐） 中尾 祐毅（嘉島） 松尾 成也（嘉島）	廣津 俊英（御船） 岩田 聡（木山） 藤原 一也（矢部） 米田 豊一（甲佐） 瀬戸香菜美（甲佐） 顧問：服部 起明（甲佐）	村上伸一郎（御船） 藤野 博文（嘉島） 竹元 政敬（益城）

4 活動状況

- (1) 【5月24日（木） 郡教科等研究会 半日研修（益城中学校）】
 - ①役員選出
 - ②研究テーマ、サブテーマの検討
 - ③年間計画作成
- (2) 【10月4日（金）研究授業 小中合同半日研修（嘉島西小学校）】
 球技「バレーボール」 授業者：安部 拓哉教諭（嘉島西小学校）

(3) 【11月15日(金) 実践発表会 小中合同半日研修(甲佐中)】

発表テーマ：「各学校の体力向上に向けた取り組みについて」

発表者：各中学校体育主任

各中学校で行っている「体力向上に向けた取り組み」についての実践発表を行った。各学校では体力テストの結果を分析し、課題を明確にした上で様々な取り組みを行っている。特に、授業の導入部分に補強運動やスキルウォームアップを行うことや、委員会を主体とした運動遊びやクラスマッチを行っているという発表が多かった。また、みんなで励ましの声をかけ合いながら運動を行うという仲間づくりに重点をおいた活動についても発表があった。このような中学校での取り組みに対して、小学校の先生方からは多くの質問があり、小学校と中学校での継続した取り組みを行い、上益城郡全体の体力向上につなげていこうという結論に達した。

(5) 【1月23日(木) 研究授業・まとめ 半日研修(甲佐中)】

武道「剣道」 授業者：米田 豊一教諭(甲佐中学校)

対話的な活動を多く取り入れた授業であった。具体的には、ペア学習やグループ学習の時間を多く設定することで、生徒同士で課題解決を行う工夫が用意されていた。その際、ただ「話し合いをなさい」と指示するだけではなく、「何について教え合い、話し合うのか」という視点を明確に示されていた。また、話し合いや教え合いを行う時間は、生徒だけに委ねるのではなく、教師が巡回し、積極的に賞賛し、助言を重ねた。生徒たちは、話し合い・教え合いの回数を重ねていくと「ここがいいね」や「がんばれ」などの仲間のやる気を引き出す言葉を使うことが増え、「〇〇ができていないかを見ていて」など、自分で仲間に協力を求めながら、学習を進めることができるようになった。授業のまとめの段階では、学習カードをもとにして、学習を振り返る場面を設定し、1時間の授業の中で学んだことを伝え合った。生徒は話し合いを通して、自分では気づくことができなかった事柄にも気づきをもてるになり、授業での学びを更に深めることができるようになった。



【相互評価の内容項目を掲示】



【タブレット端末で自分たちの動きを確認しながら話し合う様子】



【判定試合の様子】

5 まとめ(成果と課題)

① 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

- 単元の流れや1時間の授業の流れを提示することで、生徒が見通しをもって活動し、積極的に運動に取り組む場面が増えた。
- 仲間と関わり合いながら課題解決する活動は、運動を苦手とする生徒に「なんとなく楽しい」や「やってみてよかった」という満足感をもたせ、意欲を高めることにつながった。
- ICTを使うことで、自分の課題が「視覚」で理解できるようになった。
- ICTを使う場合は運動量のこと考えないと、体力向上につながらない。

② 生徒が対話的に取り組む授業づくりについて

- 話し合い活動を行う前に、教師が「話し合う内容」や「話し合いの中での役割分担」についての指示を明確に示したことで、話し合いがスムーズで活発なものとなった。
- 学習カードや技能のポイントチェック表等、思考ツールを用いることで、生徒同士の教え合いや話し合いが活発になった。
- 話し合い活動の中では、グループのメンバーそれぞれが自分の課題についての話しをするので、運動が苦手な生徒も「課題をもっているのは自分だけじゃない」という安心感をもち、今まで以上に積極的に運動に取り組むようになった。
- 仲間の技をチェックする活動では「できていなかった」ということだけで終わり、その後の改善策まで提案することができない生徒が多かった。